離宮八幡宮は橋寺の南にあり、祭る神三坐にして、上みの社は応神天皇仁徳天皇、下の社は菟道の尊を崇奉る。〔是平等院の鎮守なり、宇治郷の産沙神とす。神輿三基、例祭は五月八日〕

扨　社は当社の北にあり、離宮の摂社なり。〔離宮と号することは、此地に宇治宮ありしゆゑ自然の称号なり。又一説には、当社の神は民部卿平忠文が霊を祭るともいへり、則此地忠文の別荘にて、朱雀院の御宇承平三年三月、平　将門征伐のとき秀郷貞盛忠文等将軍として、ことゆゑなく将門を追討せしにより、勅賞のさたありけるに。小野宮左大臣清慎公うたがはしきを行はずと申されければ、九条右大臣実頼公宣ふやうは、刑のうたがはしきをば行はず、賞のうたがはしきをば行へとこそ承はり候へと申されけれども、遂に忠文には其沙汰なかりけり。忠文本意なき事に思ひ、手を握りて立たりけるが、八つの爪手の甲まで通りて血は紅をしぼり、断食して死けり。其まゝ悪霊となり、さま〴〵崇をなしければ、小野の家は絶にけり。かくて此霊を宥んため、神にいはひて宇治に離宮明神と崇め、後冷泉院の御宇治暦三年十月七日正三位をさづけ給へり〕